

第2回 多摩平の森地区 A 街区 公共公益施設等整備計画検討委員会 要 点 録

日 時：平成 23 年 11 月 24 日（木） 午後 7 時 30 分～9 時 00 分

場 所：日野市役所 6 階 全員協議会室

内 容：（１）第 1 回委員会 要点録について
（２）施設内容
（３）意見交換
（４）その他（次回日程調整など）

出席者：26 名

（１）市民委員	11 名（1 名欠席）
（２）行政委員	6 名
（３）オブザーバー	2 名
（４）事務局	5 名（企画調整課 3 名、都市計画課 2 名）
（５）その他	2 名（UR 随員 2 名）

【午後 7 時 30 分】開会

会 長：第 2 回多摩平の森地区 A 街区 公共公益施設等整備計画検討委員会を開催する。
配布資料の確認を事務局へ指示。（要点録、イメージ案、施設内容の一覧（A3））
3 月までということ非常に期間が短い。ずれ込む可能性もあると考えている。
ある程度の方向性を出していきたい。視察については議事の最後に確認する。

次第 1 議事録の確認を行う。特に意見がないので議事録は承認。

常任オブザーバーとして 日野市薬剤師会 野村会長 紹介
日野市立病院 河内代行 紹介

事務局：パワーポイント資料に基づき概略説明

会 長：前回、皆さんと話をした状況とほとんど変わっていないという説明だった。
前提条件は以下の通りなので、実行性を含めて意見をもらいたい。
「日野市としての財政的支援はほとんど見込まれない」
「民間資金を導入しなければならない」
「底地は UR。民間が UR の土地を定期借地させてもらうことは UR から内諾を得ている」

社教センターの移転協議はどうなっているのか？

事務局 : 12月に市長と理事長との会談で内容を確認し今後の方向性を決める予定。

会長 : 社教センターは移転するということで合意がなされるんだろうと考えている。
事務局にお願いしたいのは何百㎡かを社教センターとして移しましたよ、ではなくて、複合的なものの中に社教センターがありますよ、というふうにはできないのかということ。事務局に対して宿題として話をしてあるが検討をしたか。

事務局 : 現在、検討中です。

会長 : 本日は単純に社教センターを動かすというまちづくりでいいのかどうか？そういう面も含めてご意見をいただきたい。

URはいろいろと経験があると思うが、架空の話をしては仕方ないので現実論としてどうか？
(企業がどの程度まで反応を示すかということ)

事例紹介を先に説明するように事務局に指示。

事務局 : 資料に基づき概略説明。(5つのUR整備誘導事例を紹介)

会長 : 事業者は1企業か？

UR : 事業者としては1社。ほとんどのものが始まったばかりなので具体的な中身が決まっていない。高根台は1棟。

委員 : どんな企業が入札しているか分かるか？具体的な名前とかを知りたい。

UR : 基本的には社会福祉法人。株式会社だとココファン(学研系列)が入っている。

会長 : 豊四季団地は学童クラブとかが入っているが補助金がでるものか？

委員 : 豊四季団地と同様なものは補助金もあるし、どこでやってもなんとかできる感じの施設。

会長 : 豊四季団地に含まれていないものをピックアップしてほしい。
学校、子育てマンションは入っていない。保育園は補助金がでるのか？

委員 : 現在、保育園の運営費、施設設備補助金がなくなる議論がある。(特に運営費)
年少扶養控除が見直され、現在4000億の運営補助金だが、住民税が上がる分で5500億あり地方は得するという議論があるため、そこから支出しろという話が国からでている状況。

事務局 : 医療型療養病院やリハビリテーション病院が UR の事例の中には入っていない。

ワグザバー : リハビリテーション病院は可能だと思う。

診療報酬の収入にするか介護報酬の収入にするのだが、それぞれの機関から収入がうまく組み合わせたものがリハビリテーション病院。

市立病院から出そうとしている「病院機能向上基本計画」にも入っている。

委員 : 現在、市立病院としての考え方をまとめているのでオブザーバーに説明してもらいたい。

ワグザバー : 構想から計画を作っており 12 月中に完成予定。

7つの分科会にてがん治療・透析・健康増進をやるというような内容。

10 年前、社教センターの関係で我慢した部分を機能向上しようとするもの。

(市立病院が直接診療にかかわるものを拡大)

都市部の高齢化がものすごい勢いで進んでいるので、急性期の病院といえども高齢者対応が必要なので、UR の土地にこんなものがあって市立病院と連携してほしいというものとしてリハビリテーション病院などをいれている。

また、新しく出来る仕事が多様なものがあるかも検討している。

主に関係する医師会と話を詰めていく。市立病院として市長の許可を受け 12 月の委員会に計画をだす予定。

会長 : リハビリテーション病院は市立病院で運営するのか？

ワグザバー : 市立病院では運営しない。医療法人が来るかどうか？ということ。

会長 : 補助金の対象になるのか？

ワグザバー : 対象となる。運営費は診療報酬が 7～8 割で残りは介護報酬で運営できるはずと考える。

委員 : 豊四季団地の事例は全部入る可能性がある。

豊四季団地のものにコンビニ・医療モール・リハビリテーション病院が入るとよい。

看護・介護学校は大学でなければ厳しい。

高専賃はいわゆる有料老人マンションであり中流向けのものであれば入ってくる可能性がある。子育てマンションも工夫の仕方で建つように思う。

会長 : 可能性があるということか？

委員 : すべてを一手にできるかと考えるとどうなのかと思う。
病院系は医療法人、介護系は社会福祉法人であり、事業者次第で補助がもらえるかどうかといことも決まると聞いているので誰でもよいということではない。
ひとつの企業で全部は難しいという感じもする。

会長 : オブザーバーの所で看護師を云々という計画があったがどうか？
介護士の派遣とか意見があるか？

オブザーバー : 看護とリハビリが入る。訪問看護ステーションは事業としてはすごく伸びている。

事務局 : 中小規模の団体では運営は難しい。24 時間訪問看護ステーションは人材の確保が困難。
独立の施設でなくてもどこかの施設の中に入ってもよい。

会長 : 今までの話しを聞いていると当案では介護・看護学校がネックということか？

オブザーバー : 看護学校は 2 種類ある。ほかの職種に就職したが、転職して看護師になろうとする 30~40 歳くらいの人を対象とする専門学校は定数割れしている。
現在、看護の現場で求められているのは看護の大学。看護大学は介護士の養成などが付随している。

会長 : 大学の補助金はでないのか？

オブザーバー : 国が患者と看護師を 7 : 1 から 5 : 1 にしようとしている。
人材不足で質を上げなければということで大学の方がよいという考え方になってきている。
国が方向転換してきているので、文科省の助成措置ができてくることを期待している。

委員 : 看護大学がくれば、それに付随した介護関係のものが入ってくるので来てくれればすごくよい話。しかしながら手があがるか疑問。
大学は国の施策だからそれなりの補助金も入るはず。見つければ A 街区でかなり大きなウェートを占められると思われる。

会長 : 専門家の話を聞いていると、だいたいここ（イメージ案）に出ているものは成立するのではないか、というおぼろげながらの考え方ができてきた。
1 企業は難しい。事例の中ではここまでの規模のものはない。
（4800 坪を 1 企業で埋めることは並大抵のことではない）
どのように街区を分離し、どのように固めていくのか？固めていくものがいくつになるのか
ということろまでやらないと募集はできない。

委員 : 専門専修学校は定員割れが多いが、大学が29校新設、15校が学部増設されている。
公立が独立行政法人にかわり、補助金が統廃合されて公立のものが閉まっていくことはある。
どのような補助があるか調べていく価値はあると思う。

ワザバー : リハビリテーション病院に併設で医療＋フィットネスという考え方もある。

会長 : 構想自体が暗い。明るくするには子どもたちの声と大人の声と高齢者の声が混ざり合っていくまちを市長も求めていると思う。
健康な人がもっともっと健康になるためにはどうしたらいいか？という発想がこの構想には入っていない感じがする。
リハビリテーションの中にフィットネスがあってもいいのではという考えもあり、事務局に社教センターに任せるようなフィットネスを含めた複合施設を作ってほしいとお願いした。
三世代がいることで明るい声も聞こえるし、そういう声が聞こえることがお年寄りを元気にする。

委員 : 1つ1つ補助金があるかという確認だったと思うが、お金がないから低層のものばかり同じような建物が建設され暗い感じとなる。

会長 : 私の言っているのはソフト面が暗いイメージということ。明るいイメージのものがまちの中に入ってくる必要があるのではないかということ。

委員 : 会長は八王子のオリンパスホールほどではないが、中間的なランドマークみたいながあってもよいということをおうとしているのだろうと感じた。

会長 : 当街区には子どもの声が聞こえたり、健常者の声が聞こえたり、お年寄りの声が聞こえたり
そのような混然とした今の日本の社会の縮図（お年寄りが増えた）が入ったように思う。
子どもをもっと増やさなければいけない。そのためには保育園を増やし、市立病院の産科も小児科も充実させなければいけない。そして日野でどんだん子供を産んでもらいたい。
次世代がいることで希望が見えることが必要。
この街区は「日本の縮図はこうすれば変わっていくんだ」というまちにしていく可能性を秘めている。健常者（若者）がどのように入ってくるか考えている。

事務局 : 施設だけ集めるとさみしい感じがするので、常に人がいる空間として様々な世代が住んでもらうために子育てマンションなどを配置。
単純な飲食スペースではなく、コミュニケーションカフェバーのようなものを中心に配置して「遊び」をいれた。
屋外ステージなど人が地域から集まりたくなる仕掛けを中央に配置し賑わいを創出。
独居老人のひきこもりや医療施設に入院されている方の楽しみを創出できたらと考えた。

ワザバー：URの事例が示されたが、次の委員会では民間開発のディベロッパーがやっているものも参考になるかなと思う。

会長：先進事例を見学に行きたい。まだ施設はできていない？

UR：事例①の高根台以外は施設がまだできていない。

会長：現実に運営できている所があれば、大手の所を見に行きたい。
12月くらいまでに「こういう方向でいこうや」というところまでもっていかないと3月までに結論は出せない。

委員：「三世代」といいながらイメージ案が高齢者に偏っている印象がある。
子育てマンションなどで「こういうライフスタイルを描けるんですよ、だから魅力があるんですよ」ということがイメージ案ではぼやけている感じがする。
それぞれの世代がA街区ではこういうライフスタイルを描ける、という差別化したコンセプトを明確にした方がよい。

会長：現在の名称は長いし難しいし暗い。
ここで生まれ育ち、働き、年をとり医療などが充実したA街区で暮らせるというような三世代の明るい面がでてくれるとありがたい。

委員：豊田駅の北口にイオンモールが来るということになった。A街区だけですべてを完結しようとすると難しい印象がある。

会長：N街区は商店と構想マンション予定地となっているのでイオンモールからの連続性を考えてもよい。

委員：役割分担があってもよい。A街区は高齢者専用のまちでもよいのではないか。
学校をやめて子ども向けの公園なりアミューズメント施設等を設けないと子どもはこないように感じる。

事務局：N街区は住宅ができ、沿道は商業系を誘導する街区。

会長：N街区はプール付のフィットネスはできるのか？

事務局：N街区は可能だがA街区はプール付は不可。

委員 : A 街区の中央部分が子どもが遊べる芝生にしてもらえるとありがたい。

会長 : ただの遊び場では採算がとれないので施設の庭という感覚が妥当ではないか。
A 街区のおぼろげながらイメージが湧いてきたでしょうか？
市が金を出せないというのが難しい。

委員 : 1 回目に素敵なメニューをもらったと市長に報告した。
1.6 ヘクタールをめいっぱい使い、スケールを決めないでイメージ案を作った。
公共公益施設用地として位置づけた用地なので暮らしが見えてこない。
今後、暮らしのにおいがあるものが誘導されることもある。

委員 : 街区事態の暗いイメージを感じるので、中心の「ステージ」の配置は非常に大事。
1 社だとおおらかにやってくれるが個別にやると難しい。
経営主体がどこになるのかが問題と思われる。

委員 : ニューロシティに住んでいるが子どもがいると元気がでる。
お年寄りだけでなく子どもの部分を増やすと良いのではないか。
イオンモールの進出により、まちに子供が増えるような感じがする。
子育てマンションに優先的に入れるというようなものがあればよい。

委員 : 法的制約があって一手でやろうとすると仕組みが難しい。
ひとつのディベロッパーでは難しいと感じる。
高齢福祉系の施設の組み合わせは可能でパッケージは簡単だが、それだけではない
という所で無理が生じているので工夫の余地があるように思われる。

委員 : 理想は理想。運営がうまくできるようにするのが一番のポイントと考える。

ワザバー : とにかく明るさがないように感じる。

委員 : 思い切って事業を組みなおして葬儀場を考えたらどうか？
補助金の有無ばかり考えると内容が硬直化してくる。
ランドマークを目指すのかどうかなど色が見えない。

会長 : ある程度のコンサルが必要ではないか？

委員 : 基本賛成。経営者側の意見を聞いた上で検討するべきと考える。

委員 : 今のところコンサルの予算はない。

委員 : 例えば、第一次段階で「項目」だけ提案してもらって4～5社、第二次段階でもう少し細かいものを作ってもらおうというようにしたらどうか。この方法では3月までに間に合わない。

会長 : ヒアリングする。

委員 : いくら話をしても実現性がないと仕方ないので、市と相談する。

会長 : 大手ディベロッパーなど公団のHPでかけヒアリングする。
最終的に公募。3月までに間に合うか？もしくは数社に声をかけてヒアリングをするか。

委員 : 付き合いのあるところがあるので市との相談となる。

会長 : 企業がこなくては意味がない。会長に任せてほしい。次回委員会で発表する。

委員 : イニシャルコストと後年度の財政負担の問題がある。
保育園児は持ち出しが多く、将来的に納税者として市にとどまるとよい。
0街区のような商業ベースとは違うのでよく考える必要がある。

会長 : 待機児童の対応は？

委員 : 民間保育園構想があり、多摩平全体で3園の予定。

会長 : 働き場所も必要と考える。

委員 : 市としては後年度の財政負担を考え詰めていく。

委員 : 日野市は施設を建設せず初期投資も原則しない考えであり、一定の制約もある。
ランニングコストも視野にいれ検討する。

委員 : 受けてくれる事業者がいればよい。

会長 : 当委員会で決まったことは出来る方向で考えてほしい。障害を乗り越える方向でやってほしい。

委員 : この委員会は自由に話をして意見を出せばよい。

委員 : プロセスの中で財政負担など実現可能性を検証していくのであって、最終的にできたものできませんということではない。

会長 : それなら OK。最後にまとまるまでにやる方向性で考えてほしい。

ワグナー : 次回、病院基本計画をよろしくお願いします。

委員 : 市立病院は財政再建から次の段階を考える時期であり、A 街区とリンクする。

会長 : 次回日程は 12 月 20 日（火）午後 7 時 30 分～とする。 以上、本日の会議を閉会する。

【午後 9 時 00 分】閉会

この要点録の内容に間違いがないことを認める。

会 長 大 木 茂

副 会 長 笹 原 武 志